

## 子どもシンポジウムでファシリテート

豊田市では、毎年1年かけて子ども会議を行っています。その検討の結果をまとめ、市長に提案します。その後半のステップとして、豊田市内の子どもを集めたシンポジウムを行っています。

### ☆子どもシンポジウム

子ども会議は、子ども委員という立候補した市内の小中高生が集まり、市内の課題、こうなったらいいと思うことなどを話し合います。「子どもシンポジウム」は、子ども委員の考えた提案を発表し、他の子どもの意見を集め、提案に反映させるという位置づけです。

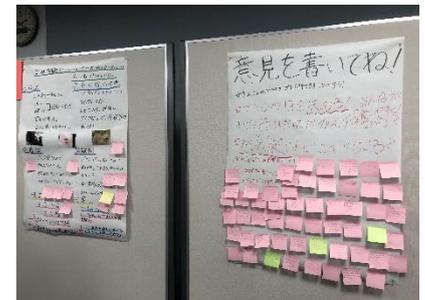
今年は、「次世代育成総合計画」を策定するために、このシンポジウムを活用しようという企画でした。シンポジウムの中で、計画に反映させたい項目（放課後の居場所、大人に言いたいこと、自慢できる近所の人など10項目）を立てて行いました。

### ☆子どもシンポジウムの進め方は

以下のことを行いました。

- ・ 子ども委員が1年かけて検討してきた市長への提案5つを発表し、参加した子ども達の意見をもらう。
- ・ ワークショップでは、10項目（テーマによっては2テーブル）のうち、話したい項目のテーブルに分かれて話し合う。  
20分ほどしたら他のテーマへ移動。これを繰り返す。  
（この部分を担当しました）
- ・ 最後に提案についてざっとまとめた意見を報告し、終了。

全体進行、提案発表と意見交換の取り回し、ワークショップのファシリテーターなどをすべて子ども委員さんたちが行っていました。



### ☆ワークショップ

子どもワークショップでは、10項目を15人の子ども委員が担当し、みんながそれぞれファシリテーターを務めてくれました。進め方は、ワールドカフェのアレンジとして、60分で一人3テーマ話してもらおうこととしました。

シンポジウムの直前に30分ほど進め方をレクチャーしただけでしたが、みんなちゃんとファシリテートできました。参加した200人ほどの子どもたちからも、えんたくんに溢れるほどの意見が出ました。

☆子ども委員のファシリテートの様子を見ていると、子ども同士のほうが話やすいのでは？と思いました。オランダの「ピースフルスクール」という、学校内の児童間の問題は、児童だけで解決するプログラムです。子ども同士の方が気持ちがわかるのでしょうか。